

未来に向かう力って何？

「未来に向かう力」とは、自分やまわりの人たちと、折り合いをつける力のことです。例えば、目標に向かってがんばる力、気持ちをコントロールする力、他の人と関わる力などがあげられます。「非認知能力（ひにんちのうりょく）」や「社会情動的（しゃかいじょうどうてき）スキル」とも呼ばれます。

最近の研究で、記憶力や推論する力などのIQで測れる「認知能力」だけでなく、この「未来に向かう力」が、子どもの将来にとって大事であることが明らかになっています。

幼児教育や保育の内容などを国が示したもの（※1）にもその内容が組み込まれるなど、乳幼児期から育むことのできる力です。

※1 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領



京都大学 大学院
准教授
森口先生

未来に向かう力 どうして必要？

乳幼児期に「未来に向かう力」が育まれると、それを土台として、小学生のころにはさらに大きく育まれていきます。それによって、難しい問題に挑戦したり、友だちと協力したり、困った時に人を頼ったりする力につながります。また、学習などがわかる力・考える力を育むことにもつながります。さらに、「未来に向かう力」は、大人になった時に社会を生き抜く力にもつながります。

も く じ

1

「安全基地」が未来に向かう力の土台になります

2～4 ページ

子どもにとっての安全基地（信頼・安心感など）を育みます

2

乳幼児期（0～2歳ごろ）の大切なことって？

5～6 ページ

「未来に向かう力」の芽を育みます

3

幼児期（3～5歳ごろ）の大切なことって？①

7～8 ページ

目標に向かってがんばる力や気持ちをコントロールする力を育みます

4

幼児期（3～5歳ごろ）の大切なことって？②

9 ページ

人と関わる力を育みます

※このリーフレットに示した発育の時期は一例です。子ども一人ひとりに、違った発育の姿が見られます。

難しそう……

今でも子育てがたいへんなのに……

未来に向かう力を育むって言うけれど……

そんなのできない……

どうすればいいの？

そんなことしてこなかったけれど……

いつも笑顔ではいられない……

「安全基地」が未来に向かう力の土台になります

子どもにとっての安全基地（信頼・安心感など）を育みます

「安全基地」とは……

- 子どもの不安をいつでも受けとめる、安心できる大人が安全基地です。子どもの心のよりどころのことで、物理的な場所としての基地を作るのとは異なります。
- 子どもが不安な時などに、体や気持ちを受けとめてもらえることで、安心感や信頼感が生まれます。これを繰り返すことで安全基地ができます。
- いざという時に頼れるところ（安全基地）があることで、子どもはいろいろなことにチャレンジしようという気持ちになれます。安全基地が、子どもの「未来に向かう力」の土台となります。

特別難しいことをするのではなく、日常の関わりの中で、育まれます。



森口先生

子育ては…… たいへんなこと いろいろありますね